南風原平和ガイドちゅ～しん

第36号
特大号

発行者
ＮＰＯ法人 南風原平和ガイドの会
沖縄県南風原町字喜屋武２５７番地
南風原町立南風原文化センター内
電話・FAX/　098-889-2533
mail/ haebaru.gaidonokai@beetle.ocn.ne.jp

早いもので、今年度最後のガイドちゅ～しんとなりました。今号は、特大号でお送りします！

サンフランシスコで「命どぅ宝～沖縄戦から学ぶ～」展示会開催

南風原文化センター学芸員　平良次子

↑ガマの再現と赤子を含めた家族の人形

米国カリフォルニア州サンフランシスコのジャパンタウンに、「全米日系人歴史協会（National Japanese American Society）」の事務所と展示スペースがある。今年1月15日から8月14日までの長期にわたり、沖縄戦の展示会が開幕した。

企画したのは、沖縄県系ハワイ出身の三世ウェスリー・巌・上運天さん。彼は民間大使、サンフランシスコ沖縄県人会副会長も務める、サンフランシスコ州立大学の准教授である。エスニックスタディーズ(民族学)を専門としていることもあり、沖縄、アジアに住む人びとの負わされた歴史、特に沖縄戦や戦後史について、在住するアメリカ・サンフランシスコに住む沖縄県人、米国人、他のアジアの人たちと共にその歴史を考えようとしている。

この展示会の企画は、沖縄県国際交流・人材育成財団の助成や大学の研究機関、県人会等の支援を受け、全米日系人歴史協会と共に実施されている。1月15日のレセプションでは、沖縄県人会を始め、協力者、通りがかりの人たちまで参加し約100人の人たちで、展示会の開催意義を確かめ合った。「広島原爆展」がスミソニアンで開催されることが中止になった背景を考えると「沖縄戦」はどうだろう？と考えた。展示は「唐世」「大和世」「戦世」「アメリカ世」で解説され沖縄が外からの支配に翻弄された歴史と、特に沖縄戦での沖縄人差別、集団死、そして戦後の様子、今沖縄の人たちから伝えたい世界平和へのメッセージも含められた。沖縄戦を学ぶことは、多角的な要素があるのだとあらためて思った。

展示は、掛け軸のように下げられたパネルと、南風原文化センターから貸出した戦争遺品、パラシュートで創られたベビードレスや米軍毛布でできたきもの、目玉のガマの再現と赤子を含めた家族の人形が目を引いていた。期間中在米の沖縄戦証言者のシンポジウムなどを予定している。すでにいろいろな反響があり、あらためて南風原文化センターが関わることに責任を感じている。

↑展示の様子

全米日系人歴史協会　ピースギャラリー　　開館時間：月～金　12:00－17:00
National Japanese American Historical Society
1684 Post Streeet 、San Francisco CA、USA　94112-3604
Tel:415-921-5007　Fax:415-921-5087　　www.njahs.org

翔南小学校平和教育の取り組み

藤原 政勝（ガイドの会事務局長）

翔南小学校は、平成20年度から今年度までの3年間、「平和教育」研究指定校として仲村校長を先頭に全教員が一丸となって、平和学習に取り組んできました。

その集大成の発表会が平成23年2月16日（水）、同小学校で多くの父母や教育関係者の参加のもとに開催されました。毎年、生徒達は「沖縄陸軍病院壕」と「南風原文化センター」を訪れ、感想や多くの質問を寄せてくれています。研究指定校になって初めての年に学習発表会で『命どぅ宝～響け平和の鐘～』という題名の創作演劇を発表しました。中央公民館での再上映には、300余名の観客を動員して上演され、我がガイド通信の第12号にも掲載されたので、記憶に有る方もいるでしょう。

以来毎年、自分たちが勉強したものを創作劇として発表し、フロアーには沖縄陸軍病院壕や沖縄戦・学童疎開などを聞き取り調査し、研究の成果を先輩から低学年の後輩に伝える作業や、パネルにして展示し学習発表会に訪れる多くの人々に見てもらう事にしています。毎年その展示を見るのが楽しみでした。しかし、『小学校における平和教育は6歳も年齢幅のある異年齢児童集団が対象であり、年齢に応じた幅のある平和教育を推進する必要があった』と仲村校長が述べているように、多くの難題を乗り越えてこられた先生方のご尽力には頭のさがる思いがします。

先生方の努力と生徒の真剣な取り組みに拍手を送りつつ、研究指定校の期間が過ぎても平和に対する取り組みは、ぜひ継続していただきたいと、願っています。

第2回　ふぇーばる物産展

2月11日（金）～13日（日）の3日間、南風原文化センターにおいて、第2回ふぇーばる物産展＆けた下ふれあい市場（主催：第2回ふぇーばる物産展実行委員会）が開催されました。3日間で延べ1500人の来場があり、昨年よりも出展者数・来場者数も増え、盛況に終えました。

2月定例理事会　ご報告

2011年2月22日（火）18:30

- マップ作りの進捗状況報告
- 紙芝居製作に関する報告
- 1月、2月の行事結果報告
- 3月の行事について
- 平成23年度の取り組みについて

チビカタマヤーガサ＝おおばぎって知ってた ？！

大城　逸子　（本紙編集部）

2月20日に屋比久壮実氏を招いて黄金森の植物観察会が行われました。レクチャーを受けた後、実際黄金森の中を歩く。何処にでもあるただの木は木でしかなかったのが、それぞれ葉の形、葉脈の違いがある事に驚き、感動・・参加者の中で「昔は家の周りにあった植物が生活に密着していた事が理解出来きました。」と感想を言った方がいましたが、同感！

小雨の中ではありましたが、先生の話がおもしろく興味深い学習が出来ました。いい企画ありがとうございます。次はうりずんの時にと要望がでました。とてもおもしろくためになった学習会でした。雑草という物が、見方によって宝ものに変わる！自然に対する私達の視点も変わる事を願いつつ、黄金森を大事に護っていきたいと 思いました。

立札に自分の名前と植物の名前を書いて立てます。上手くかけたかな？→

←参加者は、22名でした。

南風原町シマ歩き　ご報告　喜屋武　編

宮城　弘子（ガイドの会会員）

2月13日（日）喜屋武マーイに参加しました。南風原町に生まれ育ち、隣近所の身近なシマではありますが、知っている事と言えば、迫力満点の綱引きくらいです。当日は曇り空のウォーキング日和。10名ほどの参加で、ガイドの説明も聞きやすく、あっという間の1時間半でした。

先ず、悲風の丘（黄金森）で戦争の悲惨さを思い、喜屋武シジ、グーファーモーでは先人たちの遠い歴史に想いをめぐらせ、メーミチでは今も喜屋武の人が熱くなる綱引きの話に喜屋武気質を感じました。

ガイドの嘉数さん手作りのイラストと丁寧なやさしい語り口に癒され、ゆったりとした中で、少し賢くなったさんぽ道でした。

↑自分で書いたイラストも使いながら説明するガイド嘉数さん（右）

喜屋武マップを作成して

嘉数　聡（ガイドの会会員）

南風原町マップで喜屋武を担当し、去る2月13日最初のガイドを終え、まがりなりにも字マップ作成活動に一つの区切りをつけられて安堵しています。

字喜屋武は大城和喜さんの精力的な活動により資料が豊富に揃っていたので、その分曖昧に出来ない部分が多く、字出身ではない私たちにとって、難しい部分も多くありましたが、その分、喜屋武について理解を深める事ができました。

20号壕のガイドの赤嶺敏昭さん、赤嶺勉さん、大城逸子さんたちに、喜屋武の話や黄金森について教えて頂いたことも、案内内容を改めるべき箇所も多く見えてきましたので、これから少しずつでも改めていけたらと思います。

照屋スケッチ
～照屋マップを作成して～

當山　春生（ガイドの会会員）

照屋集落は、喜屋武の高台から眺めると、なだらかな丘陵に家々があり、本部、兼城へ連なる市街地の一角を占め、どこから照屋区域なのかも判然としないような街並みになっています。

集落内は、舗装道路が縦横に走り、畑が点在し、大小の川もあり、桜や梅、草花が咲き乱れ、メジロが飛び交い、花蜜の食事をし、土鳩がクリっとした眼で首を傾け「いらっしゃい」と挨拶し、すぐ、自分の餌を探し続ける風景が残っています。

土地の人達から、綱引きや松林の話、戦後の軍用道路、米軍施設などのことも聞かせてもらい、集落内の傾斜を登ったり降りたりしました。ウォーキングも楽しいものでした。

ガイドからのしつも～ん！

Q.20号壕出口近くの金網で被われた場所は金網が当時の幅、高さと考えていいですか。幅が狭くとてもベッドがあったとは思えないのですが（M）

A

天井のH鋼（H型鋼材）は、当時の高さですが、幅はワイヤーではなく壁面が当時のままのものです。この部分は、H鋼とワイヤーメッシュで覆っていますが、隙間から見える壁は当時のままの遺構です。天井面は崩落しています。発泡ウレタンを吹き付けなかったのは、壁面は当時の状況をとどめているというのと、天井は崩落していますが、白く石灰分が表面を覆うほどに安定して、そこから却って戦後の時間の経過を見ることができるからです。壕入口から十字路までの残っているオリジナル部分と幅や高さともに同じサイズで、造りつけの寝台もありました。（学芸員 上地）

ガイドからの質問募集中！

日頃のガイド活動で生まれる疑問や質問を解決し、みんなで共有しましょう！質問がある方は、編集部宮川または壕管理人までご連絡下さい。お待ちしています！

Q.12月にナゲーラ壕の調査があったようですが内部はどのような状態でしたか。発掘調査、文化財指定などの予定はありますが。（M）

A

南風原町史編集委員会の呼びかけで、調査というより現場確認程度の見学会でした。現在のところナゲーラ壕を文化財に指定する計画は町にはありません。10数年前に土地所有者が宅地として開発しかけ、「戦争遺跡が破壊される」と新聞で大きく取り上げられました。そこで所有者は買い取りと保存を町や県・国に求めましたが、いずれも指定基準がない、財政的に無理だと対応できませんでした。そのまま開発も中断されたまま現在に至っています。

先日入ったのは10年振りでしたが、川の浸食や土砂流入で内部はだいぶ変わったという印象です。壕内部は遺骨収集か、盗掘の痕跡がいたるところで確認されました。（学芸員 上地）

↑ナゲーラ壕内部（2010. 12.11撮影）

アンケート・お手紙のご紹

多くの皆様からご意見を頂き、ありがとうございます。これからも是非、ご意見をお聞かせ下さい。よろしくお願いします。

文化センターへの行き方がわからなかった。道案内がほしい。
料金を個別に払うのではなく共通見学券（料金600円でもいいので）にした方が見学者は多く来る。
文化センターの資料はとても良い。これだけの施設をもっと活用すべきである。もったいないと思う。
1月15日 埼玉県　40代　男性

皆さんの苦しみはどんなものであったか、話を聞いたり戦跡を見たりして、実感したいと思い参りました。3度目の訪沖です。赤嶺さんのお話よくわかりました。一人でも多くの人に伝え、平和こそ人間の幸せであることを、皆が共有出来たらよいと思います。皆さんのご努力に感謝致します。沖縄県及び日本全土に基地がなくなるまでがんばりましょう。
1月20日　埼玉県　70代　女性

沖縄は年に2度来ていますが、黄金森の20号壕は初見学でした。ひめゆり学徒の苦労が目にうかびます。次は糸数壕に行ってみたいと思います。
1月24日　京都府　60代　男性

大変考え深く、見学させていただきました。ガイドさんの一生懸命な案内で、大変、感動しました。沖縄の歴史を、一部でも聴けて、見学できてよかったです。
1月28日　山口県　20代　男性

修学旅行で戦跡を訪ねるということで、初めて戦争の悲劇を深く知ることができました。実際に、南風原壕群20号の中をガイドの方に説明して頂きながら歩いていくと、当時の苦しみや生きたいと願っていた方達の叫びや思いがきこえたような気がしました。最近では、豊かになった生活、時代がありますが、このような事実があったことをよく知り、考えこれからの世界の平和を考えていくということは本当に大切なことだと感じました。
1月28日　愛知県　10代　女性

水が多くもろい地層の壕を保存し公開することは努力のいることだと思われますが、見学できて良かったです。ひめゆり‥のことは映画でも見ましたが、実際あのむしむしした、暗い所であったことだと体で感じることができました。ありがとうございました。
道路拡張のためとはいえ、小学校横の信号をおれた、お墓のあたりをウロウロしましたが、私以外に今までそんな人いなかったのでしょうか？ あのあたりに是非『移転しました」の案内を設置して下さい。
1月18日　石川県　60代　男性

とても、勉強になりました。ありがとうございました。
1月28日　広島県　30代　男性

実際にあった所を見ること（体験）は、説得力があります。長い年月で、このような場所が保管されることをは大切と思います。沖縄はさすがだと思っています。本土もがんばらないと‥‥!!
2月14日　東京都　50代　女性

ガイドさんの丁寧で解りやすく、心にひびく説明に感動しました。ありがとうございました。
開設以来、毎年若者たちと現地を訪れ、沖縄戦の実像と命どぅ宝の精神を学んでいますが、今年改めて、壕内のハクリをはじめ、風化の現実を目前にして、時の流れの早さと保存の難しさを痛感しました。
私たちは、若者たちに沖縄の真実を伝えて、受け継いでいってほしいために、20号壕の長きに渡る公開を希望しますが、保存困難な場合は、入壕制限など検討していただければと思います。保存にあたってご協力できることがあれば、お知らせ下さい。
2月19日　東京都　40代　男性

昨年11月11日に平和学習で壕に訪れた兵庫県の賢明女学院から学校新聞「賢明タイムス」が届きました。その中に20号壕に関する部分がありましたので一部抜粋して掲載させて頂きます。

午後からは沖縄での戦争について勉強し、私達は壕に入った。少し中に居るだけでも辛いのに、人々は爆撃の音を聞きながらずっとこの蒸し暑い暗闇の中に居たと聞いてぞっとした。彼らの苦しみや悲しみは、壁や天井に刻まれ、当時のまま残っている。この壕は戦争の傷跡を残した貴重な物だが、いつ崩れるか分からない状態にある。
沢山の人が中に入ったりしたら、壊れるのを早める事になりかねないのだが、入ったお陰で、戦争を間近に感じ、リアルな感情を生むことができたと思う。
ひめゆりの塔にも行き、戦争が起こったら、私達と同じくらいの年齢の子も参加して、命を奪われるかもしれないということを知った。そんなのは絶対に嫌だ。だから私達はその感情を、回りの人や、次の世代に伝えていかなければならない。憎しみを生むだけの戦争をもう二度と起こさない為に。
沖縄の自然と文化、人々の笑顔を、この先もずっと守っていきたいから。
賢明女子学院高校2年　　玉石真理

スポット！

戦争証言の紙芝居3部作の作者
西銘昌子さん（5期生）

文化センター受付にいる笑顔が可愛い西銘昌子さん、まだ学生さん？と思いきや、なんと5歳と1歳のお母さん。びっくりした方も多いのではないでしょうか。
今回、陸軍病院看護婦だった奥松文子さん、ガイドの会会員石川仁助さん、宮崎に疎開した町内3人の女性たちから戦争体験を聞き、絵と文にまとめて、子どもにもわかりやすい証言の紙芝居を作りました。完成した「二度目の約束」は現在ガイドの会で貸出しています。
「絵でも説明したかったのでできるだけ正確に描こうと思った」と細部にまでこだわり、証言者に何度も確認しました。奥松さんのものは半年以上かかったそうです。「子どもがこんな間違いに二度と巻き込まれることがないよう、子どもたちに伝えたいと思った」とも。完成してまず自分の子どもたちに読み聞かせたところ、その感想は「すごい・・・」。
3月末で受付の仕事は終わりですが、「できたら証言紙芝居は続けて作りたい」と意欲を燃やします。いい仕事をしてくれてありがとう。（聞き手　本紙編集部　宮川）

紙芝居情報

戦争体験紙芝居（全三部発刊予定）
第一部　「二度目の約束」
原作　奥松文子『戦火をくぐって』（閃光の中で～沖縄陸軍病院の証言～より）
絵・編集　西銘昌子
製作　NPO法人南風原平和ガイドの会

貸出方法：南風原平和ガイドの会事務局までお問い合わせ下さい。
℡　098-889-2533　（9～17時　水曜日定休）
※販売は致しておりません。

連載「閃光の中で」

沖縄陸軍病院の証言
沖縄戦前夜の予備軍医達
(2)

軍医見習士官　長田紀春

連隊旗手に選ばれたという保田井少尉は、士官学校を率えたばかりの、林檎のような紅い頬と澄んだ瞳を持った凛々しい若武者であった。小柄な背を精一杯に伸ばしながら父親のような予備軍医たちを叱咤激励する光景は今から考えると漫画のようにも思えるのだが、そのきびきびした美少年振りと、国を憂えるひたむきな熱情に打たれた我々は、陸軍病院の門で踵を返して立ち去る馬上の少尉の後ろ姿に暫し別れを惜しんだのである。

少尉は米軍上陸早々、額の真中を銃弾で射抜かれるという壮烈極まりない戦死を遂げたという。花は桜木、人は武士というが、吹き荒ぶ嵐の中で早くも散っていった梅花一輪とでもいうべきであろうか。

陸軍病院

沖縄陸軍病院は南風原小学校の校舎を使用していて、我々の宿舎には校庭の片隅に設けられた三角兵舎が当てがわれた。

細い丸太を組み合わせ、萱やキビの葉で屋根を覆った南洋式長屋であったが、大城森の山中で寝起きしてきた我々にとって、居心地は決して悪くはなかった。同じ軍隊ではあってもギスギスした戦闘部隊の真中にいるよりも、病院という自分の体に馴染んだ場所の方がより親しみがあり心中安堵を覚えるからであろう。どの顔も明るくなって笑い声まで聞こえるようになり、食欲旺盛を極め、同僚の残した食事を買い廻る残飯整理班長まで出る始末である。

「おい、奥さんにまた手紙を書いているぞ」の囁き声に眼を上げると、B先生が薄暗い部屋の中で顔を伏せながら筆を走らせている最中だった。学生時代に猛烈な恋愛をして結ばれたという今の奥さんを内地から沖縄まで連れてきて開業したB先生にとって、奥さんは、まさしく我が心の太陽だったのだろう。

精悍な浅黒い顔、そしてそれに似合わないチョビ髭を生やした先生の外観からは到底想像もできないほどの熱烈な愛妻家であって、その言葉の端々から洩れてくる惚気は、そぞろ空閨の淋しさを感じ始めている中年男の戦友共を大いに刺激したのである。

3ヶ月後の2月15日、私は正式の召集を受けて陸軍病院伝染病棟に配属されたが、ここで偶然にもこのB軍医と再び同じ室で寝起きを共にする羽目になってしまった。

ある月曜日の朝のことである。初めての外泊から帰隊した軍医を見て私は唖然として暫く言葉がでないほどであった。その太い首には目にも鮮やかな桃色の襟布がこれ見よがしに艶っぽく巻かれているではないか。

「軍隊ではこんな色もの禁止されていますよ」

「上の人に見られたら怒られるぞ」

などと同僚のいうのを聞きながら、B先生はにっこりと呟いた。

「せっかく内の奴が夜遅くまで起きて作ってくれたんだ。いいじゃないか」

そして、そのまま朝礼の集会に飛び出していったのである。予想どおりピンク襟布は真先に病院長の目にとまり、「この大馬鹿者」と指さして退場を命ぜられた。そして、その晩がまた大変な夜になった。　酒を帯びた先任軍医が我々の室に殴り込んできたのである。B軍医を一番前に正座させ、その後ろに同室の石川軍医と私を座らせ、鉄拳や平手打ち、果ては気合棒まで持ち出しての制裁なのだ。連帯責任の我々には手加減をしてくれたが、B軍医の殴られ方は痛々しくも無惨であった。翌朝、紫色に膨れ上がって歪んだその顔は見るも憐れで慰める言葉もないほどである。廊下を歩くにも何となく小さくなって気落ちしているB軍医を見て、我々は心から同情を禁じ得なかった。しかし軍隊のしきたりや規則を知らない彼を非難するよりも、その天真爛漫な振る舞いに、より人間らしい心意気を感ずるのは、軍隊の垢に染まっていない予備軍医の我々だけだったのかも知れない。

彼が他の野戦病院に配転させられたのは、それから間もなくのことである。

陸軍病院で毎日行われる講義は軍法規、衛生法、救急処置、薬剤等が中心であり、最後の締め括りに筆記試験が繰り返された。

「この年になって答案を書くとはな」と、溜息を漏らしつつも皆懸命に筆を取っていたが、それというのも成績が悪ければとんでもないところに配属させられるのではないかという不安があったからである。

ところが、この試験に勇敢にも全部白紙を提出する人が現れた。那覇で内科を開業されて間もなく空襲で被災された島袋一夫博士である。私はこの話しを聞いて、男の一生の夢を賭けた病院を全焼させられた上に、なお、自分の生命や家庭まで踏みにじってゆこうとする巨大な軍に対する精一杯の抵抗のように思えてならなかった。同時に、このことが軍の心象を害して博士の身に何か災難を引き起こすのではないかという一抹の危惧も抱いたのである。案の定、この事件は病院首脳部、軍医部で問題になり、幹部の比嘉中尉が沈痛な顔で「困ったことをしてくれた」と一言もらしたのを覚えている。だが、私達の心配は全く杞憂に終わってしまった。博士が後日、正式に配属された先は、こともあろうに軍医部であり、軍司令部付となって牛島中将を初め、高級将校の侍医の一人になったのである。

博士の実力と人柄は流石の軍も認めざるを得なかったのであろう。

しばらくして私達の短くて長い教育実習は幾つかの波紋を描きつつ11月末を以て終わりを告げた。だが、戦局の様相は益々急迫し2ヶ月後の昭和20年1月に殆ど全員が予備軍医として再招集され、軍病院または部隊付軍医として軍務に就くことになった。一方民間の傷病者のために県立病院が戦闘中も必要であるという島田知事の要望で、平良肇(産婦人科)、嵩原安春(外科)、新垣寛保(内科)の三氏はそれぞれ県病院の部長として召集を猶予され、軍民中枢の所在地である首里において最後まで民間医療に従事されたのである。

4月1日、遂に米軍は大軍を擁して沖縄本島に上陸し、ここに3ヶ月に及ぶ日米両軍の凄惨な死闘が開始された。

自由に診療や研究に打ち込んでいた民間の医者は、予備軍医として不馴れな軍隊生活に苦しみながら否応なしに熾烈な戦場に参加を強いられていった。そして、地獄図のような敗戦の修羅の中に巻き込まれて悪戦苦闘しつつも次々に悲惨な死をとげられたのである。

硝煙渦巻く山野の岩陰や暗黒の洞窟の中で苦痛に苛まれながら後髪を引かれるような思いで最後の息を引き取られた諸先生の心中を察すると、40有余年を経た今でも胸中暗澹たるものを覚えるのである。我々は郷土医療の人柱としてこの人々の死を無意味にせぬようにするにはいかにすればよいか、今後とも襟を正して考えねばなるまい。謹んで御冥福を祈る次第である。(完)

「閃光の中で　～沖縄陸軍病院の証言～」より転載

沖縄陸軍病院第三外科で看護婦長を務め、「閃光の中で　～沖縄陸軍病院の証言～」を編集・執筆された具志八重さんが、2月6日お亡くなりになりました。御冥福をお祈り申し上げます。

お知らせ

シマ歩き参加者募集

製作した字マップをもとに、、以下の日程でシマ歩きを致します。参加ご希望の方は、実施日の5日前までに事務局までご連絡ください。

日時
3月27日(日)兼城／4月17日(日)宮城

時間　13:00～15:30
13:00文化センター集合
13:30出発(予定)　15:30現地解散

参加費500円(保険料込み)

南風原文化センター展示会

新垣盛秀個展(彫刻)
2011年3月12日(土)～27日(日)
9:00～18:00[水曜日]

募集

南風原平和ガイドの会事務局職員募集！

4月1日より勤務の出来る方を募集します。
仕事内容:ガイドの会事務局に関わる業務
勤務形態:一日8時間勤務
週休二日制(定休水曜日、他1日休み)
条件:パソコン操作ができる方(必須)、できれば南風原町内在住者
年齢:不問　／給与:お問い合わせ下さい。
詳しくは　事務局889－2533まで